

2012年3月期 決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q1

2012年3月期のクロネコメール便の取扱数量（通期実績）は、▲5.4%でした。第3四半期時点の通期予想▲4.9%に対して、若干下振れしていますが、この下振れ要因を教えてください。

参考資料：スライド8（四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移）

A1

- 足元のチャネル別取扱冊数は、コンプライアンス遵守による荷受の厳格化により、宅急便センター扱いの小口商流市場を中心に減少しています。お客様へのご説明を含め、取扱冊数の回復を狙ってまいりましたが、通期予想には届きませんでした。
- 一方、ダイレクトメールを中心とした大口法人市場は、引続き+2.0%～+3.0%と堅調に推移しています。
- 2013年3月期の取扱数量（通期予想）は、2012年3月期に対して、ほぼフラットで計画をしております。チャネル別には、前述の通り大口法人市場においては、2.0%～3.0%の増加、小口商流市場においては、2.0%～3.0%程度の減少を予想しております。

Q2

海外宅急便事業による赤字額のピークは、いつ頃でしょうか？

参考資料：スライド9（海外宅急便事業の進捗状況）

A2

- 新規事業展開の進捗にもよりますが、現時点では2014年3月期が赤字額のピークだと見えています。

Q3

2013年3月期（通期予想）において、ホームコンビニエンス事業が2012年3月期に対して、増収増益の計画で組まれています。

合理化施策は、ある程度実施されたものと思いますが、更なる増収増益が可能な理由を教えてください。

A3

- 個人様向けのセッティングデリバリーは、残念ながら今後も減少傾向を辿ると予想をしておりますが、医療機器等を中心とした企業様向けの配送ビジネスは、足元で堅調に推移しておりますので、より力を入れてまいります。

- また、個人様向けのビジネスでは、単純な引越に留まらず、転居先でも弊社をご利用いただけるよう、レンタル商材のご提供など、日常生活のご支援も力を入れておりますので、企業様向け・個人様向け双方に対して営業拡大を図ってまいります。
- 一方、費用面では、IT化の推進により、事務オペレーションの効率化を見込んでおりますので、引続きコスト削減を進めてまいります。

Q4

2013年3月期（通期予想）のデリバリー事業の委託費のうち、特にクロネコメール便に関わる委託費の計画について教えて下さい。

A4

- 2013年3月期においても、引続き、フィールドキャスト（パート社員）を採用し、セールスドライバーとのチーム集配を進めてまいります。
この施策を通じて、宅急便とクロネコメール便の共配を進め、クロネコメール便の自配率向上を図ってまいりますので、クロネコメール便に関わる委託費は、前年に対して減少させていく考えです。

Q5

スライド 11～13（中長期経営計画のロードマップ～地域社会に密着した取組み）のチャートにおいて、取組み事例をご紹介いただきましたが、お客様に対する課金の仕組みを教えてください。

A5

- ご説明させていただきました通り、スライドで紹介いたしました事例をはじめ、現在、事業性の検証を行っている段階です。2014年3月期を最終年とする現在の中期経営計画においては、この取組みによる収益は、多くは織り込んでおりません。
- ただし、この取組みは社会貢献活動ではありませんので、この取組みからの収益は、+アルファとお考えいただければと思います。

Q6

2013年3月期（通期予想）の宅急便単価については、▲1.3%を予想していますが、単価下落の要因を教えてください。

A6

- 宅急便単価の下落要因は、大口法人市場における宅急便の増加に伴う商品ミックスの影響によるものです。単価の高いC2C市場の宅急便は、引続き減少傾向

になると予想されますので、全宅急便取扱数量に占める大口法人市場の割合が高くなることを予想しています。

- 同業他社との競争は、一時期に比べ安定してきておりますので、競争環境による単価下落は、さほど大きなものにはならないだろうと予想しています。

Q7

2013年3月期（通期予想）の人件費は、前年に対して+4.0%を計画していますが、労働生産性の進捗状況および今後の展望を教えてください。

A7

- 取扱数量が安定して増加している中で、チーム集配を手法とした労働生産性の改善を図ってまいります。2013年3月期は、チーム集配の実施店舗を前年に対して倍増させていく計画ですので、主婦層を中心として、フィールドキャスト（パート社員）の採用を計画しています。

Q8

2013年3月期（通期予想）の減価償却費は、410億円を計画していますが、羽田クロノゲートに関わる償却費増加がどのくらい織り込まれているのか、教えてください。

A8

- 2013年3月期における羽田クロノゲート関連の減価償却費はございません。2012年3月期に対して23億円増加している要因は、車両・マテハン等、その他の設備投資分によるものです。

以上